



石膏製の型に泥漿(液状にした坯土)を流し込んで形づくる「排泥鑄込み成形」。急須や土瓶などの袋もの製作に適している。

日本遺産 Japan Heritage

Vol. 11 「日本磁器のふるさと肥前～百花繚乱のやきもの散歩～」 波佐見の生地成形技術(波佐見町)

陶石、燃料(木々)、水(川)など、窯業を営む条件がそろった自然豊かな九州北西部の地「肥前」では、さまざまなやきものが誕生し、それぞれに歴史を紡いできました。

中でも、約400年前に波佐見焼が誕生した波佐見町は、江戸時代には日本一の磁器生産量を誇り、現在も日用食器全国シェアの約15%を占める一大産地です。

ライフスタイルにあった器を提供し続け、“生活の器”として親しまれる波佐見焼。その生産は、型屋(石膏型の製造)、生地屋(素焼き前の器成形)、窯元などによる分業体制で行われています。各工程を特化した技術によって担うことで、幅広いニーズへ対応しながらも効率よく生産でき、大量かつ高品質なやきものづくりが可能となるのです。

波佐見では、江戸時代に、足で回す「蹴ろくろ」により生地成形の技術が高度化し、磁器の大量生産が可能となりました。そして、近代以降には「鑄込み成形」や「機械ろくろ成形」など新たな技術が導入され、肥前における生地生産の中核として発展を遂げました。波佐見で成形された生地は、現在も周辺のやきもの産地に供給されており、肥前一帯の磁器生産を支えています。

●P.12「情報ひろば」に、本日本遺産の関連イベントを掲載しています。

400年 熟成 観光 地。



日本遺産とは

地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産 (Japan Heritage)」として文化庁が認定するもの



回転する台に石膏製の型をセットし、こてで坯土を押しながら形づくる「機械ろくろ成形」。皿やボウルなどを同じ形状で大量に製作する場合に用いられることが多い。



さまざまな職人の技が結集し、完成する波佐見焼。高い機能性とデザイン性で全国的に高い人気を誇る。

問合せ 県の県北振興局 商工労政課 ☎0956-24-5287

肥前やきもの圏

検索

